

検証する対応案「新宿中学校敷地内への増設」

I 概要

- 1) 新宿中学校敷地内に増設し、新宿小学校の高学年（５年生～６年生）を受け入れる校舎を設置する。新宿中学校は、将来、小学校の児童数増加の波が押し寄せ、教室不足なることが予想されるため、あらかじめ新宿中学校敷地内に校舎を増設することによって、小学校と中学校の双方の対応を図る。

II 検証項目

1) 円滑な学校運営

- ・新宿中の金工室・木工室棟を解体し増設するため、児童・生徒の仮設校舎が不要である。校庭を縮小することがないため、体育の授業等に影響が少ない。
- ・新宿中に増設した場合は、新宿小の増設校舎が不要となる（１２．５億円）。新宿小は、適正規模となり校舎や校庭が現状のまま使用できる。
- ・新宿中に通う５、６年生は、中学生との交流を生かした教育を工夫することができる。

2) 広域的な適正配置

- ・新宿小学校の過大規模校化は解消できる。
- ・宮崎小学校の大規模校化の解消にはつながらない。

3) 安全な通学路

- ・通学路は大きく変わらない。歩道や信号機が既に整備されており、特に緊急な整備は不要である。

4) 学校と地域の関係

- ・新宿小学校区の変更がないため、これまでと同様に自治会組織としての新宿小学校に対する支援体制等が期待できる。

5) 経費等

- ・常設増築型 鉄骨３階 約 2,700 m² 普通教室 16、金工室、木工室、職員室、事務室、部室等） 概算費用（設計・工事費等 約 9.0 億円）
- ・スケジュール H22 事業計画、H23 設計、H24 増設工事、H25.4 月供用開始
- ・新宿小へ増設した場合は、さらに新宿中への増設も必要となり、経費は合わせて約 20 億円程度となる。